

畦畔抑草技術

水田経営において、畦畔管理は多大な労働力を必要とするため、省力化が求められています。そこで、畦畔管理省力化のための試験を実施しているところです。

① 畦畔用芝のセンチピードグラス「ティフ・ブレア」は、草丈は10～25cm。ほふく茎の伸びが速く、雑草の発生をよく抑え、根が太く深く伸び、畦畔や法面の土壌をしっかりと保持するといった特性があります。また、水に弱いので、水田内に進入しない点も特徴です。

「ティフ・ブレア」は、畦畔や法面を覆い尽くすまでは、周りの雑草の草刈りなどの手間がかかりますが、一度定着すると長期間雑草の生育を抑制して草刈り労力を軽減できます。

現在、日田市の（農）小野谷 と、玖珠町の（農）こご で畦畔への定着をはかっています。

② 「雑草抑制おまかせネット」は、メッシュ状のシートを畦畔や法面に設置することで、雑草の生育を抑制するものです。ネットは伸縮性があって軽いので、設置は簡単に行えます。すでに生えている雑草を殺さないで、土壌の流亡がほとんどありません。

ただし、耐用年数を過ぎたネットは、回収して廃棄物として処理しなければなりません。

現在、日田市天瀬町女子畑協定集落、玖珠町（農）実業営農組合、九重町恵良営農組合で実証試験中です。

～各方法とも、一長一短がありますが、

これからも畦畔管理の省力化を図るために、検討を重ねていきます。～

～現況を見学したい方は、お気軽に振興局あてご連絡ください～

H20年産水稻作付けを振り返って

日田・玖珠の水稻作況は107（526kg/10a）で、全般的に早生品種の方が良かったようですが、出穂期以降が高温で推移したことや8月4半旬以降の降雨による倒伏で、やや品質は低下しました。ヒノヒカリについては、出穂期がやや低温であったことや10月が全般的に高温・多照であったため品質は良好でした。

1等米比率は県全体では、62.8%と6年ぶりに高く、日田市については、平年並みの69.2%で、玖珠町、九重町は平年より低い82.2%にとどまりました。収量が多かったのは、7月～8月前半の好天で、穂数（粒数）が平年よりやや多かったことによります。

これまで見られなかった斑点米の原因となるミナミアオカメムシは、日田市、玖珠町で発生が確認され今後要注意です。また、この3～4年発生が多いフタオビコヤガは、平成20年も多発し平成21年も要注意です。

作成・発行 大分県集落営農推進西部支部

大分県西部振興局農山村振興部

TEL：0973-22-2585 FAX：0973-23-2219

集落営農かわら版

平成21年2月15日 VOL.9

大分県集落営農推進西部支部

大分県西部振興局農山村振興部

新規集落営農組織の設立

《小平営農組合》

日田市上津江町では、「上津江農業公社」を農作業受託を行う「担い手」と位置付けています。農作業委託の取りまとめなど、農地の利用調整を行う話し合いを主体とした集落営農を推進し、集落営農組織が集落全体の委託希望を取りまとめ、農業公社が効率的に農作業受託を行うことで、上津江町の農地を守っていかうとしています。

日田市上津江町小平上・葛地区（以下：小平集落）では、中山間地域等直接支払制度を活用し、農地を守るために共同で様々な取組を行ってきましたが、今後、更に集落の高齢化や兼業化が進行すれば、担い手の不在、耕作放棄地の増加等が心配されます。これらの課題に対処するためには、現在の活動を更に発展させ、相互の連帯のもと活動を継続していくことが望まれます。

そこで、小平集落では農地利用調整を主体とした「小平営農組合」を平成20年12月23日に設立しました。

小平集落では新規品目としてコギクの生産に取り組んでいますが、今後、農業公社へ作業委託することによって生じた余剰労力でコギクの作付け面積を増やす等、更なる積極的な営農活動を展開していくことが期待されます。



日田集落営農組織連絡会が視察研修を実施！

日田市内の集落営農組織は、日田地域の農業・農村地域の発展に寄与するため、「日田集落営農組織連絡会」を平成19年12月3日に設立し、研修や情報交換等を通して相互の連携を深め、組織運営や経営確立に向けた活動を行っています。

平成20年11月28日に同連絡会主催の先進地視察研修が行われ、各組織の代表者と関係機関職員が豊後大野市の「農事組合法人みしま」の活動について研修しました。

「農事組合法人みしま」では広瀬組合長から法人化に至るまでの経緯や、資材の一括購入による経費削減といった法人化のメリット、経営安定のための新規品目（ニンニク）導入の取り組みなどについてお話を伺いました。

また、昼食会場や車中でもお互いに情報交換が行われ、親交が深まっていました。こうした横のつながりが地域農業のさらなる発展につながるものと期待しています。

第4回西部支部集落営農法人リーダー養成講座の開催

集落営農推進西部支部では集落営農組織の運営強化と法人化を検討する契機となるよう、これまで3回の西部支部集落営農法人リーダー養成講座を開催しました。平成20年12月19日に、今年度、最後となる上記講座を、集落営農、農業法人の税務関係の第一人者である森剛一税理士を招いて開催し、39名の集落リーダーが参加しました。

「集落営農組織の会計と税務」と題して、法人化のタイミングとポイント、任意組織から法人組織に移行する際の留意点、法人税の概要と税務申告、法人運営における会計税務上の留意点、法人設立後の税務関係等の届出等について、お話を伺いました。

最後に、同養成講座4回全てに参加された(農)大肥郷ふるさと農業振興会、求来里営農組合、塚田地区営農組合、金ヶ塔・土草地区営農組合、(農)書曲営農組合、(農)実業営農組合、(農)長小野チャレンジ村、(農)こごの8組織が皆勤賞を受賞しました。



集落営農経営相談会

法人を設立してまもない組織、今年度法人化を目指している組織を対象に、各組織に応じた会計税務のあり方や法人化の課題を検討し、今後の組織の運営強化に向けた経営計画の樹立や経営改善の契機とすることを目的として、下記のとおり集落営農経営相談会を開催しました。

大分県普及協力委員の秋好克則税理士を招き、各組織個別の相談を行うことで問題点の解決が図られました。

- ①平成20年12月2日 19:00~21:30 玖珠町役場
(農)長小野チャレンジ村、(農)こごの2つの法人が参加しました。
- ②平成20年12月4日 18:15~21:15 日田市天瀬振興局
(農)小野谷、求来里営農組合、塚田地区営農組合、栄稲作協業組合の1つの法人、3つの任意組織(法人志向組織)が参加しました。
- ③平成21年1月14日 18:00~20:00 玖珠総合庁舎
(農)こご、泊里営農組合の1つの法人、1つの任意組織(法人志向組織)が参加しました。
- ④平成21年1月16日 17:30~21:00 日田総合庁舎
(農)小野谷、熊の尾地区農機利用組合、伏木地区農地保全組合、栄稲作協業組合の1つの法人、3つの任意組織(法人志向組織)が参加しました。

集落営農・特定農業法人サミットに参加して

西部振興局 白石 隆

開催月日：平成20年12月11~12日、開催場所：島根県松江市、現地研修：島根県雲南市

中国四国地域のみならず西日本全域から多数の関係機関、法人代表者が参加した上記のサミットに参加しましたので、概要及び西日本の情勢等について、報告します。

●全体会(講演会) 11日(木) 松江市

基調講演

農水省経営政策課長からは、組織経営安定のため、農地集積促進や機械支援リース事業等を積極的に利用してもらいたい、また、米の生産の効率化による余剰労力を新規作目導入に活用してほしい旨の説明がありました。

広島県では、集落法人連絡協議会を設立して、「連携」「稲作依存体質からの脱却」を活動のキーワードにして、法人化、農産加工の推進や園芸品目の導入、経営改善を進めているとのことでした。

島根県では、集落営農評価システムを開発し、集落営農組織を経営発展性評価指標や地域貢献性評価指標を設定し評価を行っており、経営発展や地域貢献の状況・将来の可能性を数値化し、分類する試みが始まっています。

事例報告

島根県飯栗東村の(有)グリーンワークでは、営業の多角化や税務対応、米政策改革への対応のため有限会社を設立。高齢者外出支援サービスや公園管理受託、羊の放牧等にも取り組み経営の多角化と地域の活性化を図っているとのことでした。

山口県阿武町の(農)うもれ木の郷では、収益の配分、利用権の設定、補助事業対応等を勘案して法人化を行っています。米と野菜栽培の専業農家には、稲作を法人にまかせ野菜作に集中することで所得向上を果たしているとのこと、西部管内でも進めていただきたいと感じました。

広域連携による低コスト集落営農事例

広島県のJA三次管内の集落法人9組織や乾燥調整会社、加工業者等が大豆ネットワークを構築し、受委託作業の調整・幹旋や機械の効率的利用、販売先確保と価格の安定化を図っています。

●現地研修(中山間コースを選択) 12日(金) 雲南市

1 三刀屋町 農事組合法人 フレッシュファームこうじろ

農地の利用集積や資金借入れの名義、会計処理問題等に対処するため任意組織を法人化し、水稲やとうがらし、水耕でのミニセロリ、ミツバ栽培を行う他、加工所も運営しています。

みそ、梅などの加工品を直売や宅配で販売し、収益は水稲部門を上回っています。女性が元気なことで集落の活気があるようですから、西部管内でも女性の力の活用を進めていきたいと感じました。

2 木次町 神楽の郷、癒しと水がテーマの農事組合法人 槻之屋ヒーリング

圃場整備をきっかけとして法人化し、兼業農家が多いため農作業の繁忙期はシルバー人材からも雇用しているとのこと。「完全な会社経営」を目指し、合理化を進めています。5S主義(整理、整頓、清潔、清掃、躰)と5ゲン主義(現場、現物、現状、原理、原則)の徹底を図っています。